

ミドル管理者養成塾

支援概要

厳しい激動の時代を迎えており、お客様のニーズに応える「現場・現物・現実」の3現主義の中核を担うミドル管理者の役割は益々重要性を帯びてきています。

こうした中、若手社員の早期戦力化を機能させるためのノウハウとそのため簡易マニュアルをご提供します。さらに、自立させるための目標管理の面談を具体的にトレーニングしました。

◆第3回 8月22日（木）

「燃えて仕事ができる面談のやり方」
メンバー一人ひとりが、自ら目標を掲げ、PDCAを回せる面談ができるようにする。

毎年参加する企業もあり、企業内の中堅社員育成の一助になっています。

毎回、多様な業種から多くの参加者があり、参加者の異業種交流、人材交流の場を提供することができています。

参加企業 22社

参加者 延べ126名

支援経緯

厳しい激動の時代を迎えた企業において、お客様のニーズに応える「現場・現物・現実」の3現主義の中核を担うミドル管理者の重要性が益々高まってきました。

こうした企業のニーズに応えるべく、企業の中核を担うミドル管理者を養成する講座を開設することにしました。

養成塾の様子



活動実績・成果

◆第1回 6月13日（木）

「相談できるメンター養成の方法」
職場で信頼関係を形成するやり方をしっかり身に付ける。

◆第2回 7月11日（木）

「早期に戦力化するOJTのやり方」
仕事を早く覚えたいと思える動機付けを含め、業務能力をしっかり身に付ける。

感性応用計測研究会

支援概要

感性評価・計測法を研究して製品開発へ応用します。

人間のもっている「楽しい」、「心地よい」、「使いやすい」といった感性をものづくりに取り入れる技術が感性工学です。人の気持ちを計測して数値化および評価を行い、製品開発、デザイン、マーケティングに活かすための調査・研究をします。

(フィーリングを数値に置き換えて消費者が求めている商品を開発します。)

支援経緯

信州大学繊維学部感性工学科上條正義教授をアドバイザーとし、県内外の企業(測定器メーカー5社、設計〜販売5社)、長野県工業技術総合センター、信州大学繊維学部を会員としてフィーリング(感性)を数値に置き換えて消費者が求めている商品を開発すべく調査・研究を行っています。

活動実績・成果

令和元年度は4回の研究会を実施しました。

◆第1回(5月)

特別講演:

- ・「ドットパターンにおける凸点の形状・間隔と粗さ感の関係」

講師: 相澤 淳平氏

- ・他研究発表2件

吉田 宏昭氏、上條 正義氏

◆第2回(8月)

研究発表

- ・「地域における産学管連携による感性応用計測研究の取り組み」
- ・他研究発表1件
八木橋 展生氏
- ・他研究進捗報告4件

◆第3回(12月) 特別講演

- ・「理学療法の実地で実施される筋力検査と治療ー感性工学の学びを活かしてー」

講師: 古川 勉寛氏

医療創成大学准教授

◆第4回(2月)

- ・研究進捗報告 4件
- ・マットレスの固さ体験実験
<令和元年度実績>
- ・参加人数 延べ 66名
- ・会員各社の感性工学に関する知識向上が図れました。
- ・外部講師による特別講演で感性工学の応用範囲の知見拡大が図れました。
- ・研究生の発表を通して企業会員との交流が図れました。

(自分に合った
マットレス
の硬さ調査)



(研究会)

若手技術者養成講座「制御・IoTコース」

支援概要

地域企業における技術力の底上げを図るため、現場で役立つ機械・電気・電子・情報の工学の基礎習得や測定技術者等を養成する講座を企画しました。

「RaspberryPi を用いたプログラミング実習」を行い、昨今、スマート工場として話題となっているIoTについて基礎力を高め、若手技術者の育成を図りました。

支援経緯

IoT については、専門家に依頼はできるが、コンサルティング(問題点把握・対策提案など)から入ることが多く多額の投資が必要になります。

自身で行えば比較的安価(機材だけなら数万円)に手掛けることができます。

このコースでは、RaspberryPi (ARM ベースのワンボードコンピュータ)を用いて、汎用の入出力機材を使ってプログラミング実習し、データ収集から出力まで理解していただきました。

活動実績・成果

令和元年度は5回の講座を実施しました。

第1回(10月4日)

- 1) IoT について
- 2) RaspberryPi の基本・使う前の準備
- 3) Python について、Linux の基本

第2回(10月11日)

- 4) プログラミングのための基礎
- 5) 実際に機材を用いPython プログラミングを行い動作確認

第3回(10月18日)

- 6) 各種センサー入力やPWM 出力させるプログラムを作成・動作確認
- ・入力：電圧、人感センサー、湿度、照度、スイッチ
- ・出力：LED、モータ

第4回(10月25日)

- 7) カメラモジュールを使った画像処理
- 8) インターネットを使った画像処理

第5回(11月)

- 9) 音声認識について

10) 事例発表

- ・シナノケンシ事例発表「Raspberry Pi を利用した生産実績の可視化」
他3件

〈成果〉

・参加者には基本操作を習得していただき、それを基に実際に自社工場に導入しました(昨年度受講者)。今回、事例発表も実施しました。



丁寧に指導する講師



事例発表の様子